

テニスでデフリンピック目指す

日本福祉大（美浜町）スポーツ科学部1年の相原風城さん（18）が、来年に東京で開かれる聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」への出場を目指し、来月にデフテニスの国際大会に出る。「実力を監督、コーチにアピールしたい」と意気込んでいる。（石井豪）

来月国際大会で選考



デフリンピック出場を目指す相原さん＝美浜町の日本福祉大で

日福大・相原さん「実力アピール」

静岡県磐田市の出身。生まれつき難聴で、普段は補聴器を付け、読唇術なども組み合わせてコミュニケーションを取っている。

幼少期、水泳教室に興味があつたが、「危ないから」と難聴を理由に参加を断られた。できるスポートを探していたところ、「誰でも」と張り紙のあつたテニスクラブに出合い、小1でテニスを始めた。

デフテニスは基本的なルールはテニスと変わらないが、補聴器は外す。補聴器を外して初めてプレーしたときは打球音が聞こえずに不安だったが、今は目だけでボールの勢いや行方を判断できるようになつている。

高校は常葉大菊川高（同県菊川市）に進んだ。テニスの強豪校に入ることも考えたが、サポートができないと受け入れられなかつた。健聴者とプレーした同校の硬式テニス部ではレギュラーを張り、団体の県大会出場に貢献した。「みんなからすごく祝つてもらえて、そういう

現在は美浜町に下宿し、大学の硬式テニス部で苦手なボレーの特訓など、日々練習に取り組んでいる。将来的な目標は、デフリンピックや世界選手権でメダルを取ること。「フルマッチでも戦い抜くためにもつと体力がいる。ストロークもボレーもできる選手になりたい」と活躍

うのは初めてでうれしかった」狙つた所に強く、正確なボルを打つフォアハンドのストローク得意とする。相手を左右に動かし、自身は省エネルギーで得点する効率的なスタイルが理想だ。昨年はデフテニスの世界選手権に登場。外国人選手のパワーに圧倒され、「いい経験になった」と振り返る。

来年11月には日本初のデフリンピックが東京で開かれる。「この大会に出たいと強く思つた」と、開催が決まった当時の心境を明かす。来月の国際大会はその選考を兼ね、日本の男子選手で上位4人に入る評価を得る必要がある。「相手にパワーがあるので、地道にラリーをしてミスを待ちたい」と、世界選手権の経験を存分に生かす考えだ。